教職課程における情報の公表(2026年度)

フェリシアこども短期大学

教育職員免許法施行規則第22条の6に基づき、以下のことについて公表いたします。

1. 教員の養成の目標及び当該目標を達成するための計画に関すること

■ 教員養成の目標

本学は、建学の精神である「愛の教育」を主軸とし、学校教育法および教育基本法の本旨に基づき、豊かな人間性と高度な専門的知識・技能を兼ね備えた幼児教育者の養成を目的としています。乳幼児期における心身の発達を深く理解し、一人ひとりの子どもに深い愛情を注ぎ、奉仕と共感の精神をもって社会や多様な人々と協働できる保育者を養成するため、以下の5つの教育目標を定めています。

・知： 社会生活に必要な教養と保育者としての確かな知識を身につける。
・情： 豊かな感性と愛の心を育てる。
・意： 自分を知り、自らの人生を選び取る意志の力を育てる。
・体： 健全な心と丈夫な体を育て、規則正しい生活習慣を身につける。
・技： 保育者としての実践的な技能を身につける。

■ 当該目標を達成するための計画

本学では、カリキュラム・ポリシーに沿って以下の内容で授業計画を立てている。
建学の精神である「愛の教育」および教育理念「愛をもって幼児を育成する保育者の養成」に基づき、専門的知識と技術の修得に向けて理論と実践の科目をバランスよく配置しています。実践的な行動力と広い視野を備えた保育者を養成するため、以下の6つを柱として教育課程を編成・展開しています。

①８つの領域

ディプロマ・ポリシーで掲げる人物像を育成するために８つの領域を設定し、多面的な人材育成を図る。
⑴．教育・保育の本質と目的に関する科目
⑵．人間の理解に関する科目
⑶．世界の教育・保育に関する科目
⑷．表現技術・基礎技能に関する科目
⑸．言語に関する科目
⑹．教育・保育の内容・方法に関する科目
⑺．実習・実践・研究に関する科目
⑻．教養に関する科目

②教養科目
国際理解や日本の文化、倫理など、人間として健康に豊かに生きていくための幅広い教養科目を設置する。特に、キャリア教育は２年間を通して行い、初年次教育から社会基礎力の育成まで一貫したひとつの科目として編成する。

③専門教育科目
乳幼児教育の原理から実践に必要な技能の修得まで、科目間の連携を図りながら、実践演習をひとつの集大成科目と位置づけ、重層的に科目を編成する。

④言語に関する科目
グローバル社会の中で活躍できる保育者の養成を目指し、正しい日本語と、実践的な英語コミュニケーション能力を修得するための科目を編成する。

⑤資格・免許取得
２年間（国際こども教育コースは３年間）で保育士資格と幼稚園教諭免許状が取得できるよう教育課程を編成し、事前・事後指導も含めて実習科目を編成する。

⑥時間割編成
乳幼児教育の専門職としての意識を高め、実践的な力を養うため、主体的・意欲的な学びを促す時間割を編成する。子どもを取り巻く現代的諸問題に対する関心を高め、習得した知識・技術を総合して適切な保育・子育て支援の実践的展開や課題解決ができるよう、アクティブ・ラーニング形式の科目を多く配置している。さらに、社会のグローバル化に伴い、多文化に対応できる国際感覚豊かな保育者を養成するため、海外フィールドワークをはじめとする多角的な授業を展開する科目を配置している。

2. 教員の養成に係る組織及び教員の数、各教員が担当する授業科目並びに学位及び業績に関すること

■ 教員養成に係る組織及び教員数

本学の教員養成は「国際こども教育学科」および「専攻科 国際こども教育専攻」が全学的に一体となって担っています。また、実習指導の円滑な実施やサポートを行う「実習センター」や、学修・生活支援を行う「教務課」「学生支援室」などの事務局組織と教員が緊密に連携し、組織的な教員養成体制を確保しています。

教職課程（幼稚園教諭二種免許状認定課程）の指導体制は、学長・学科長をはじめとする計12名（令和8年4月1日現在）の教職専任教員を中心とした組織構成をとり、全学的な指導・統括を行っています。

職位構成：教授5名、准教授1名、講師3名、助教2名、助手1名（専任教員計12名）
学位及び専門性の傾向：
専任教員の専門分野は、教育学、幼児教育学、人間学、児童学をはじめ、幼児教育における教育社会言語学、社会福祉学、保健福祉学、家政学、社会科学、文学、音楽と多岐にわたっています。幼児教育・保育の基礎理論から心身の発達・子育て支援・福祉領域、さらには言葉・自然・音楽実技指導に至るまで、教職課程に必要な専門分野を網羅する多角的かつバランスの取れた教員配置を行っています。高度な専門知識に加え、現場経験豊富な実務家教員も配置することで、理論と実践を融合させた質の高い教員養成を推進しています。

■ 各教員の学位・業績・担当授業科目の公開方法

教育職員免許法施行規則第22条の6第二号に基づき、教職課程を担当する教員個人の最新の情報(氏名、職名、所属、取得学位、主な研究業績、および各教員が担当する授業科目)は、以下の本学

公式ウェブサイト内の専用ページにて常時一般公開を行っています。教員の退職や新任等に伴う最新の教員組織および担当実態についても、同ページより随時ご確認いただけます。また、本学では学則等に基づき「自己点検・評価」を定期的に実施しており、その成果を取りまとめた「自己点検・評価報告書」についても本学公式ウェブサイトにて広く公開しています。

フェリシアこども短期大学 公式ホームページ 「教員組織・研究業績・担当科目公表ページ」
アクセス手順： トップページ ＞ 国際こども教育学科 ＞ 教員紹介
URL: https://www.felicia.ac.jp/department_of_ice/teacher_introduction.html

3. 教員の養成に係る授業科目、授業科目ごとの授業の方法及び内容並びに年間の授業計画に関すること

■ 教職課程（幼稚園教諭）の主要な授業科目構成

〈教員養成に関わる授業科目〉
《幼稚園教諭二種免許状取得の条件》
学則第２４条の卒業要件を満たし、次の単位を修得すること。
・免許法施行規則第 66 条の 6 に定める科目：8 単位
・領域及び保育内容の指導法に関する科目：12 単位
・教育の基礎的理解に関する科目：9 単位
・道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目：4 単位
・教育実践に関する科目 ：7 単位
・大学が独自に設定する科目：5 単位
・卒業必修科目（教養科目）：3 単位
・選択科目：14 単位以上
・合計：62 単位

2026年度生　幼稚園教諭二種免許状取得に必要な科目および単位

免許法施行規則に定める科目区分等			幼二種免に必要な科目と単位数		
科目区分		各科目に含める必要事項(領域)	左記に対応する開設授業科目	単位数	
				必修	選択
第66条の6に定める科目		日本国憲法	日本国憲法	2	
		体育	体育理論	1	
			体育実技	1	
		外国語コミュニケーション	英語コミュニケーションⅠ、Ⅱ	2	
		情報機器の操作	幼児教育と情報機器演習Ⅰ、Ⅱ	2	
		小計		**8**	**0**
領域及び保育内容の指導法に開講する科目	領域に関する専門的事項	健康	幼児と健康	1	
		人間関係	幼児と人間関係	1	
		環境	幼児と環境	1	
		言葉	幼児と言葉	1	
		表現	幼児と表現	1	
	保育内容の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）		保育内容総論	1	
			保育内容（健康）の指導法	1	
			保育内容（人間関係）の指導法	1	
			保育内容（環境）の指導法	1	

		保育内容（言葉）の指導法	1	
		保育内容（表現）の指導法Ⅰ	1	
		保育内容（表現）の指導法Ⅱ	1	
	小計		**12**	**0**
教育の基礎的理解に関する科目	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	教育原理	2	
	教職の意義及び教員の役割・職務内容（チーム学校への対応を含む）	教職概論	2	
	教育に関する社会的、制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。）	（教育原理）		
	幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程	保育の心理学	2	
	特別支援の支援必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解	特別支援教育（障害児保育）Ⅰ	1	
		特別支援教育（障害児保育）Ⅱ		1
	教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む。）	教育課程総論（保育の計画と評価）	2	
	小計		**9**	**1**
道徳、総合的な学習の時間等の指導及び生徒指導、教育相談等に関する科目	教育の方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む。）	保育・教育方法技術論	2	
	幼児理解の理論及び方法	子ども理解と相談・援助	2	
	教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法	（子ども理解と相談・援助）		
	小計		**4**	**0**
教育実践に関する科目	教育実習	教育実習指導	1	
		教育実習	4	
	教職実践演習	保育・教職実践演習（幼）	2	
	小計		**7**	**0**
大学が独自に設定する科目		幼児音楽Ⅰ	1	
		幼児音楽Ⅱ	1	
		幼児音楽Ⅲ	1	
		幼児音楽Ⅳ		1
		幼児造形Ⅰ	1	
		幼児造形Ⅱ		1
		幼児体育Ⅰ		1
		幼児体育Ⅱ		1
		自然遊びと生活環境保全Ⅰ	1	
		自然遊びと生活環境保全Ⅱ		1
		国際こども教育概論		2
	小計		**5**	**7**
教職科目	**教育職員免許法施行規則における教職科目合計**		**45**	**8**
上記以外の本学必修科目		文章表現法	1	
		キャンパスライフデザイ	1	
		キャリアデザインⅠ	0.5	
		キャリアデザインⅡ	0.5	
	小計		3	0
選択科目	選択科目は上記、教育の基礎的理解に関する科目の選択１単位及び大学が独自に設定する科目の選択５単位のほか保育実習科目を除く卒業選択科目のなかから14単位以上を選択すること。		14	
幼稚園教諭二種免許状取得の必要合計単位数			**62**	

■ 年間の授業計画、シラバス及び履修ガイドラインの公開について

本学では、春学期・秋学期の2期制（必要に応じて各学期を2期間に分ける4学期制に対応）のもと、1年次の基礎理論・基礎技能から2年次の教育実習・教職実践演習に至る体系的な年間授業計画を編成しています。　教職課程の履修方法、進級・修了要件、GPAによる学修成果の評価基準、カリキュラムマップ、並びに全科目の年間の詳細な授業計画（シラバス）については、以下の本学公式ウェブサイトにて広く一般公開しております。

フェリシアこども短期大学 履修規程
フェリシアこども短期大学 GPA規程
フェリシアこども短期大学 2026年度シラバス
フェリシアこども短期大学 2026年度カリキュラムマップ

4. 卒業者の教員免許状の取得の状況に関すること

本学国際こども教育学科における、直近の卒業生の幼稚園教諭二種免許状および保育士資格の取得実態は以下の通りです。

卒業年度	卒業者数	幼稚園教諭二種免許状取得者数	保育士資格取得者数
令和7年度（2025年度）	87名	61名	66名
令和6年度（2024年度）	89名	55名	64名
令和5年度（2023年度）	102名	69名	82名

※数値に関する注記： 本学には2年制（こども教育コース等）および3年制（国際こども教育コース～専攻科進学等）の複数の修業年限コースが存在します。3年制コース在籍者は、2年次卒業時に短期大学士の学位を取得した後、専攻科進学を経て3年次修了時に保育士資格等を取得するカリキュラム体制をとっているため、各年度の「本科卒業者数」と「資格取得者数」の合計は一致しない場合があります。

5. 卒業者の教員への就職の状況に関すること

取得した免許・資格を活かし、東京都・神奈川県をはじめとする地域の幼児教育の発展に寄与しています。クラス担任と学生支援室が強固に連携し、2年次または3年次の就職活動を徹底的にサポートしています。

卒業年度	卒業者数	教員就職者数 (※幼稚園・幼稚園型認定こども園、幼保連携型認定こども園)
令和7年度（2025年度）	87名	21名
令和6年度（2024年度）	89名	15名
令和5年度（2023年度）	102名	21名

※上記「教員就職者数」は、学校基本調査に準拠した「幼稚園及び幼稚園型認定こども園」及び「幼保連携型認定こども園」に教諭・教員として直接就職した正規・臨時採用者の確定実績数です。この他に多数の学生が保育士として保育所・認定こども園(保育園型)・児童福祉施設等に就職をしています。

6. 教員の養成に係る教育の質の向上に係る取組に関すること

(1) 本学では教員養成の質の向上のために、以下のPDCA改善サイクルを実行し、組織的な学修成果の保証に努めています。

・Plan（授業設計とシラバスの統一性・実質化）
開設科目において、学習成果（LO：Learning Outcomes ）との関連性をシラバスに明記し、カリキュラムマップとシラバスの一貫性を持たせています。シラバス作成ハンドブックの配布、全専任教員および教務委員会による第三者チェック等により、記述内容の標準化と水準維持を徹底しています。また、15回の授業を確実に実施したうえで定期試験を別枠で実施するなど、単位の実質化を図っています。

・Do（アクティブ・ラーニングの推奨と多角的指導）
学生の主体的な学びと教育効果を高めるため、シラバス内に「アクティブ・ラーニングの度合い（グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーション等の比率）」を明記し、実技・演習のみならず講義科目においても双方向型の授業を展開しています。また、習熟度に応じたレベル別・少人数指導やICT機器を活用した授業を展開しています。

・Check（多角的な学修成果アセスメントと自己点検・評価の実施）
学生による授業評価アンケートを毎学期定期的に実施するほか、本学独自の「23能力」測定やコミュニケーション力テスト、履修カルテ等を活用したアセスメント・ポリシーに基づき、学修成果を多角的に測定・分析しています。さらに、学則第1条の2に基づき、教職課程を含む全学的な教育研究活動、管理運営の状況に関する「自己点検・評価」を組織的に実施し、検証報告書（評価結果）を本学公式ウェブサイトにて広く一般公開しています。

・Action（FD・SD活動と授業・組織改善への還元）
アセスメント結果や自己点検・評価の検証結果、第三者評価機関等からの指摘を踏まえ、全教職員を対象としたFD（ファカルティ・ディベロップメント）・SD（スタッフ・ディベロップメント）研修会を定期的に開催しています。教員個々の指導技術のブラッシュアップや教材・機材（情報機器の活用含む）の刷新、次年度の授業設計の高度化へと確実に還元させています。

(2)地域・社会の各団体との連携
・町田市鶴川地区協議会と連携し、学生による地域のお祭りへの参加やボランティア活動を積極的に行っている。また、附属幼稚園・保育園の園児やご家族をはじめ、地域住民の皆様を短大の文化祭にご案内・招待し、日頃の学習成果の展示や各種企画を観覧・体験していただく機会を設けている。

・附属園と連携により実践力の養成を重視している
附属園であるフェリシア幼稚園との連携により、園児との活動を積極的に授業に取り入れ保育者としての関わり方を学ぶ機会を設けている。